

子ども達の豊かな成長・発達の力を  
ために皆で力を  
合わせましょう！

教え子を再び戦場に送るな！ 2015年9月18日発行NO.556

## 2015夏 教育研究集会

### 山下正寿さんの講演に 「衝撃！」 「本当の事実を知りたい！」の声

「ビキニ事件」フクシマをむすぶもの。核被災に向き合う教育のために」  
8月29日(土)、福祉会館で夏の教育研究集会を開催しました。  
記念講演講師の山下正寿さんは、高知県の元高校教員で現職の時から、地元高校生といっしょに高知の漁民の「ビキニ水爆実験」の被害者調査に

とりくみ、第五福竜丸以外にも多くの被災船があることを、粘り強く調査し、明らかにされてきました。

講演のなかで、当時多くのマグロ漁船が被災し、膨大な量のマグロが被ばくしたと、そのマグロが知らないうちに加工され、市場に出回っていたことなどが、わかりやすいデータをもとに明らかにされました。

この事実は、テレビや映画でも取り上げられ、全国に発信されました。

しかし、第五福竜丸以外のことは、まだほとんど知られていません。

時代が変わっても、国の「隠ぺい体質」には共通のものがあります。

今回の講演は、日本が置かれている状況を映し出したかのような内容で、考えさせられることが多くありました。

#### 【感想より】

山下さんのお話、ビキニ事件のことを聞きたくて来ました。予想していた以上の内容で、きちんと知っておくこと

は大切なことだと思いました。

・三十年にわたってビキニ事件について調査され、隠ぺいしてきた事実をあきらかにして報告されたことに、まず心を動かされました。ビキニ事件、福島原発事故、原発の再稼働、様々なことが政府、財界の都合のいいように情報操作されているな、ということ強く感じました。事実を知って、正しく発信できるようになりたいと思いました。

・ビキニ事件のお話中、何度も衝撃を受け、おそろしくなりました。情報をきちんと公開することで防げた被害があったはずなのに…。

全体集会では、紙芝居クラブ「ともだちや」による、紙芝居「とらやんがゆく むかしむかしのとよなか①服部天神と能勢街道」が上演されました。楽しく地域の歴史を学ぶことができました。

午後は、「図工の実技講座」「不登校・登校拒否問題の講座」「子どもと発達講座」「中学校・高校分科会」「事務職員部分科会」に分かれて、二期のスタートとなる学習を大いに進めました。



**あの戦争はなんだつたのか！**  
 歴史の事実を見つめ、真実をまき、語り継ごう！  
 歴史歪曲の安倍自民党政権、侵略戦争美化

## アジア・太平洋戦争

1941年。12月8日 日本陸軍はマレー半島に上陸し、イギリス軍と戦闘を交え、シンガポールに進撃。ハワイの真珠湾攻撃もおこない、アジア・太平洋地域で戦争を広げました。シンガポール・マレーシアを占領し、日本に敵対している多くの人々を処刑。東南アジア地域で、日本軍は人々を労務者として集め飛行場建設などの肉体労働にかりたてました。タイ・ビルマの鉄道建設にビルマ・タイなどから多くの人々を建設現場に送り込み、重労働で過労や病気で倒れ多数の死者が出しました。イギリス軍捕虜6万人もこの工事の労働をさせられました。インドネシアでは戦後も「ロームシャ」という言葉が語られ、苦しい肉体労働の記憶が残りました。

日本は欧米の植民地支配から解放して「大東亜共栄圏」を作ると宣言していましたが、日本軍のこうした支配の在り方に対応して、各地で抗日・独立運動が起こりました。

### 餓死・玉砕

1942年8月から南太平洋のガダルカナル島では、アメリカ側が圧倒し、日本軍は食料や兵器・弾薬を補給できません。ジャングルの中で兵士は栄養失調となりマラリヤや赤痢にかかり、餓死する人があいつぎました。3万人の兵のうち「戦死者五千人、餓死者1万5000人」と日本軍司令官が記しています。遺骨の多くが今も現地に残されたまま、同じことがニューギニア島やフィリピン諸島の多くの戦場で起こりました。アジア太平洋戦争での日本軍の戦死者の内、餓死あるいは病死した兵士は140万人とみられています。1944年6月、サイパン島では日本は軍艦も航空機も失い、守備隊へ物資を送ること

**戦後70年 夏 沖縄ツアー！**  
**戦跡&米軍基地をめぐる（1）**

朝輝 千明（小曾根小）

今年には戦後七十年の節目の年ということもあり、8月20日〜23日の2泊3日で豊中・池田・箕面・豊能の教員とその家族二十三人で沖縄の戦跡めぐり&米軍基地の見学に行きました。

がでなくなっていました。日本軍は、米軍の戦車・炎放射器の砲火の中へ、銃剣で突撃を繰り返し、玉砕しました。約1万人の日本人住民やサ

イパン島民も、これに巻き込まれて死亡しました。

水木しげる著  
 「総員玉砕せよ」  
 講談社文庫

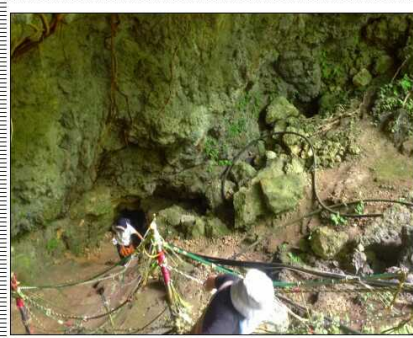
### ○ガマ（洞窟）

自然にできた洞窟・ガマは地上から10m以上も地下につながる通用口を通り入りました。沖縄戦ではガマの中に多くの市民・日本兵が避難し、岩場で足元も不安定で真っ暗な中、一人ひとりが座るほどのスペースしかないほどひしめき合っていました。赤ん坊が泣きわめくと米軍に居場所が知られてし

まうということでは日本兵が何とも言わず赤ん坊を連れ去り絞殺。家族も文句を言うとは自分も殺されることを知っているのも言えない：どんな思いで沖縄の人はガマで過ごしていたのでしょうか。

### ○ひめゆりの塔

沖縄のエリート女学生であった「ひめゆり部隊」。そこでは教育の恐ろしさが伝わってきました。戦時教育の中、「米軍に捕まるのは恥であり、それなら集団自決を」と教師と散っていった命。真面目さゆえに自分の命を捨てていくその根源は学校教育でした。私たち教職に携わる者はこの沖縄戦から教育の影響を受け止め、何を教えるべきか教師自身が真摯に考えなければなりませんね。



上：轟の壕 入口上部から撮影  
 下：平和ガイドさんの話を聞く



（この文章は上記のイメージと関連して、戦争の記憶と教育の重要性について述べています。）